

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和4年2月27日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670105107
法人名	医療法人 碩済会
事業所名	グループホーム敬史館
所在地	鹿児島市本名町494 (電話) 099-294-1717
自己評価作成日	2022年1月8日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和4年2月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍のため、外部研修の代わりにeラーニングを実施し、研修報告書を提出してもらうことで、介護の質の向上を図っている。

利用者様が安心・安全に生活していただく為に、年3回災害時想定避難訓練・誘導訓練・消火訓練・通報訓練など年間を通して実施している。吉田分遣隊指導の訓練も行い防災意識を高めている。
※スプリンクラー設置により利用者様・ご家族様からの安心・安全も得ている

重度化対策として、重度化になっても安心して入浴していただけるよう特殊浴槽機を設置している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「主体性、自主性を尊重したケア」「家庭的な環境の下での生活」「家族との絆を地域の中で支える」の3つの柱を理念に掲げ、日常生活を送る中での決定を利用者自身に選択してもらうことを大切に考え日々の生活に反映させている。また、家族の思いや意見が反映されるよう面会時の会話から意見を伺うほか、毎月の新聞の発行や写真添付の活動報告書を送付することで意見をもらえる機会に繋げている。

ホームは母体医療機関や老人保健施設等が隣接しているため、医療連携が図りやすく、また、重度化や終末期支援に関しても医師や看護師の支援が得られるため、利用者や家族、職員の安心につながっている。

日常会話の中で利用者の好きな食べ物を尋ねたり、料理の本を見てもらい食べたいものを選んでもらう等して献立を作成している。野菜の根切りやじゃがいもの皮むき、味見をしてもらうなど利用者も調理に参加している。コロナ禍で外食は控えているが、手作りおせち料理やひな祭りメニュー、クリスマスバイキング等、季節感ある食事を提供すると共に、誕生会に好きなものをリクエストしたり、新鮮な刺身による海鮮丼や鰻丼の提供など、食べることの楽しさを大切に考え支援している。

リズムパターン表を活用して水分摂取量や排泄管理に努め、排泄用具に頼らず可能な限りトイレで排泄できるよう支援している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	法人理念の他、施設独自の理念を作成している。毎朝申し送り時に理念を唱和し、意識の共有を図り実践に繋げている。	ホールと事務所に理念を掲示し、毎朝唱和することで意識付けを図っている。理念にある「主体性、自主性を尊重したケア」を大切に考え、本人本位の生活が送れるよう日々支援につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、回覧板の閲覧にて情報を得て交流の機会を設けている。	コロナ禍以前は地域の敬老会や忘年会に参加したり、同法人の保育園児と交流する機会があったが、現在は散歩途中の挨拶や会話、近隣住民に野菜のお裾分けをもらうなど限られている。コロナ収束後は地域との交流を再開させたい意向である。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	通年であれば、福祉フェスタ、地域文化祭・敬老会等地域の催しに参加しているが、現在はコロナ渦のため参加できていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ渦のため会議の開催はできておらず、運営の報告のみさせて頂いている。	コロナ禍のため、外部者参加の会議開催は控えており、職員間でのみの話し合いに代えている。メンバーに会議録を提出する際に事業所の取り組みや現状についてを説明し意見や提案をもらうようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者とは頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>定期的に他事業所、行政関係者への入退所状況情報の共有を図り、常に協力体制が出来ている。</p>	<p>介護関係の書類提出時や相談事がある時等、随時行政に出向くほか、担当課とも連携して利用者の生活を支援している。また、地域包括支援センターとも利用状況の確認や研修での交流を通じ日々協力関係を築いている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>毎月のリスク委員会にて検討会を実施している。また、スタッフミーティングにてケース検討を行うときは各スタッフへ理解・認識を深めている。</p>	<p>リスク委員会を毎月実施し、身体拘束の有無や拘束のないケアについての話し合いを行っている。利用者が外出しそうな様子を察知した際は、遠視による見守りを行い、外出した場合は付き添う等、行動制限のないよう支援している。言葉による行動制限についても十分な理解と認識の下で対応している。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>委員会を中心に、毎月1回検討会議を実践し、虐待防止への意識、理解に努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>研修やeラーニングにて権利擁護の制度について勉強会を実施し、職員の周知、意識、浸透に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者・ケアマネージャー・計画作成担当者を中心に口頭又は文書にて説明し、理解・納得を頂いたうえで署名・捺印を頂いている。自由に見学ができる体制づくりである。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍で運営推進会議は行えていないが、意見箱を設置し、活用することで要望等自由に意見交換が出来るように努めている。	コロナ禍で家族会は実施できないため、支払いに来られた際や面会に来られた際に意見や要望を積極的に尋ねるようにしている。また、意見箱の設置や苦情や相談等を含め意見を出しやすいよう毎月の新聞発行や活動報告をこまめに発信することで感想や意見をもらう機会につなげている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフミーティングにて各委員会からの報告や職員からの意見・提案を受けて話し合いを行い反映している。	毎朝の申し送り時や毎月のミーティングのほか、休憩時間など随時意見や要望を聞いている。また、年2回人事考課を兼ねた個別面談も実施している。勤務表作成時は休みの希望を可能な限り反映させたり、研修参加や資格取得のバックアップを行うなど働きやすい環境に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休憩室の設置あり。定時の休憩時間を設けて気分転換できるように努めている。時間外や休日出勤は手当を支給している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>年間行事に基づき、eラーニングを実施し、研修報告を書いてもらう事で職員の育成につなげている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域包括センターが開催して下さる地域ケア会議に参加し、情報・意見交換の機会作りに努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には本人と面談し、不安や要望を聴き取り、ケアに当たる職員で情報を共有。ご本人に安心していただくよう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会など来られた時、ご本人の状態を報告し、ご家族の意見や要望を聞き出せるよう関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族が必要としている支援を担当者・ケアマネージャーと連携し、必要に応じてサービス利用の検討を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の残存能力や機能に応じて一緒にできることがないか考えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に1回新聞を発行し、本人の状況を報告したり、月の行事計画をお知らせしたりして面会の機会作りを行っている。行事参加の声掛けを行いながら関係づくりに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、友人、知人などが訪ねてこられた時は窓越しに面会してもらっている。電話をかけたいなどの要望も時間帯等を考慮して支援している。	以前は美容室や墓参りに家族と職員が協力して支援していたが、コロナ禍の現在は外出を控えてもらっており、電話や手紙の取り次ぎ等に留めている。コロナ収束後はこれまでの馴染みの関係を再開させ継続できたらと考えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ユニット間を行き来できる利点を活かし、多様な関わりを持つようになっている。また、行事等を合同で開催し、顔なじみの関係を築けるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や転所にて契約終了後も経過を確認するなど、関係性を大切にし相談や支援ができるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別ケアを重視し各々の課題や問題点などをスタッフ全員で話し合い解決に向けて努めている。	思いや意向を本人が伝えられない場合は日常生活の中で見せる言動から思いを汲み取ると共に、家族や入居前のケアマネージャー、病院の相談員等からの意見も参考にしながら思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報シートや個別計画書などに掲げているプランについてのモニタリング等を行い、状況把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人に敬意を図り日々の過ごし方やその人らしい生活が有意義に送れるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケース検討会を行い、より安全な、安心できる環境を提供できるようスタッフ全員で話し合っている。	本人や家族の意向を基に毎月実施しているケース検討会やモニタリング評価のほか、主治医の意見も参考にしながらケアプランを作成している。プランの見直しは定められた期間だけに行うのではなく、状態や意向の変化に合わせて行い、必要に応じて都度、ケアプランを見直している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>記録を重視し、報連相の徹底を図っている。疑問点や提案などがある時は話し合いが持てる環境である。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>家族とのコミュニケーションも図り、型にとらわれず介護保険内のできる事例には対応を図っている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>コロナ渦のため、今は近隣の福祉事業所との交流は行えていない。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>併設病院とは医療連携体制をとり、情報提供を密に行い信頼関係を築いている。本人や家族の希望も勘案して適切な医療が受けられるよう支援している。</p>	<p>医療連携による安心感から利用者全員が母体医療機関をかかりつけ医としており定期的もしくは随時受診している。専門医など他科受診の際は家族と職員が協力して受診を支援しており、受診時の内容は申し送り時に共有している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>毎朝のバイタルチェックやケース記録・申し送り時の著変者など併設看護師へ報告・相談し助言を仰ぐなど適切な受診・看護を受けられるように支援している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>担当医の情報提供書や看護サマリー、ADL評価表などで情報共有を図り、管理者・介護支援専門員・計画作成担当者が中心になり病院関係者との関係づくりに努めている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>家族へは入所時面談の際やカンファレンスの中で重度化や終末期についての話し合いを行っている。Eラーニングを通じて職員の学習も図っている。</p>	<p>入居時に重度化と看取りに関する指針を説明し、看取り同意書については入居時もしくは終末期等、家族の気持ちに配慮し適宜署名を交わしている。また、入居後も重度化や体調の変化に合わせて繰り返し指針を説明することで変化する思いに即した支援に取り組んでいる。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>定期的に勉強会や緊急時マニュアル作成を行い対応方法を掲示し、早期対応できるよう努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>定期的な防災訓練・通報装置の操作方法の確認等に取り組んでいる。火災・地震時の対応方法について簡潔に掲示してある。</p>	<p>年2回夜間想定を含む火災訓練を消防署立ち合いの下で実施している。訓練に地域住民は参加していないが、母体医療機関や老人保健施設が隣接しているため災害時は協力が得られる体制にある。飲料水や食料は約3日分程度備蓄しており、ヘルメットやカセットコンロなど備品も準備している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	間違ったり失敗したりされたときはさりげない声掛けをするなどして自尊心やプライバシーを損ねないよう配慮している。	プライバシーに配慮してトイレ誘導時は耳元でさり気なく声をかけたり、排泄の確認の際は部屋で尋ねるようにしている。また、日中ポータブルトイレを使わない時は部屋の隅にカバーをかけておく等、ドアを開けた際に目につかないよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何かしたいことや悩みがないか会話の中でくみ取るよう努めている。また状況をかみ砕いて説明し、自己決定できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や就寝など大まかな時間は設定しているが、個々人の生活歴に合わせ自分のペースで生活できるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	好きな洋服を選んできていただいたり、朝の整容がしっかりできるように支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いなどに合わせ、できる範囲でメニューを変更したりしている。調理の手伝いは難しくなってきたり、お盆拭きや片付けは一緒に行えている。	野菜の根切りやピーラーでじゃがいもの皮をむいたり、味見をしてもらうなど利用者也調理に参加している。また、日常会話で食べたいものを尋ねたり、料理本を参考にして意見をもらいメニューに反映させている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	できるだけ食事・水分をしっかりとってもらえるよう工夫しているがまだまだ工夫が必要な方もおられる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で口腔ケアができない方については毎食後スタッフにて口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	リズムパターン表を用いて把握し、トイレでの排泄を援助している。自立している方は現状を維持できるよう過不足のない介助を心がけている。	リズムパターン表により排泄パターンを把握し、可能な限りトイレで排泄できるよう支援している。また、終日おむつの場合も表を参考にしながらパットやおむつ交換を行うなど個々の状況に合わせて対応しながら保清に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防として毎朝牛乳を提供したり、お昼にヨーグルトを提供したり、オリゴ糖を提供したりと工夫している。また、個別訓練で運動も取入れている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	本人の希望は可能な範囲で対応し、週3回程度は入浴していただけるよう取り組んでいる。また、機械浴を備え身体機能に応じた入浴も可能である。	週3回午前中の中の入浴を基本にしているが、希望があれば可能な範囲内で随時入浴は可能である。入浴を楽しめるよう入浴剤を用いたり、入浴後の水分補給にスポーツ飲料やクエン酸飲料を提供している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	思い思いに過ごしてもらっている。定期的に寝具を洗い、エアコンで温度調整をして気持ちよく眠れるような支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医や薬剤師から情報を得て薬の説明書を必ず確認し理解に努めている。お一人ずつ配薬・服薬確認をし、症状の変化の確認にも努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干しや洗濯物たたみ、お盆拭きなど個々人の能力に応じてホームでの役割や張り合いづくりに努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	園庭や近所の散歩などは行っているが、コロナ渦のためドライブや希望に沿った外出はできていない。	以前は季節毎の花見や公園、ソーメン流し等に天候や体調を考慮しながら出かけていたが、現在コロナ禍のため敷地内の散歩や近隣に回覧板を届ける等の交流に限られている。屋内ばかりではストレスにつながるため、コロナ収束後は外食に出かけたり、外気浴を楽しめるよう外出の機会を増やしたいと考えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>個々人の状態に合わせお金を所持している方もいる。コロナ渦のため、希望に沿った買い物は職員が行っている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>事前に承諾を頂き、本人希望時等家族に電話をしたり、友人との手紙のやり取りが出来るよう支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>談話室には季節の花や行事飾り、季節毎の壁画などを展示したり、日付や曜日が分かる手作りカレンダーを設置したりと、季節を感じてもらえるような居心地の良い空間となるよう工夫している。</p>	<p>フロアには節分のお面やクリスマスツリー壁画等、利用者と職員が一緒に制作した季節の作品を掲示している。浴室は一部特殊浴槽を備えているため、高齢化や重度化しても安全な入浴が可能である。感染症予防のため、こまめな換気や手すり等よく触れる箇所の消毒を毎日徹底して行っている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>玄関口にベンチを設置したり、談話室にはソファを設置したりと、入居者が思い思いに過ごせるようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>出来るだけ家で使っていた馴染みの物を準備してもらうようにしている。また、ご家族との写真や本人の好きなものを飾ったりと居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>	<p>電動ベッドにエアコン、タンスが備え付けられ、自宅から持ち込まれた位牌やテレビ、書籍等を居心地よく過ごせるよう自由に配置してもらっている。また、身体状況に合わせた模様替えも適宜行っている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>各部屋やトイレ、お風呂などが分かり易いように表札や看板のようなものを貼り出している。</p>	/	/

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
		○	3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない